令和２年度　学校マネジメントシート

学校名（　四日市工業高等学校　全日制　）

1　目指す姿

(1) 目指す学校像		「技術と精神（こころ)」をあわせ持った職業人を育成し、地域にとって必要で愛着をもってもらえる学校
(2)	育みたい児童生徒像	○　主体的に学び、専門的な知識と技術・技能の修得に努める生徒 ○　スポーツ・文化活動等を通じて、個性を伸長し、心豊かな人間性を備えた生徒 ○　規範意識を持ち社会に貢献できる生徒
	ありたい教職員像	○　目指す学校像の実現に向け、保護者・企業・地域等からの要望を受け止め、互いに情報共有を図り、すべての教職員が一体となった教育活動を進めるとともに、意欲を持って教育活動のできる教職員集団 ○　仕事にやりがいを感じ、自らも成長しようとする教職員

2　現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜生徒＞ 生徒の約８割が就職、約２割が進学を望んでいる。進路実現のために資格取得、部活動等における飛躍などを中心とした学校生活の充実を期待している。 ＜保護者＞ 子どもたちの進路実現と部活動等の集団生活をとおした人間的成長を求めている。 ＜企業等＞ 元気で明るくコミュニケーションが図れ、社会に貢献できる生徒が育成されることを期待している。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	**連携する相手からの要望・期待**	**連携する相手への要望・期待**
	＜家庭・保護者＞ 心身ともに健康な人材が育成されることを期待している。 ＜中学校・小学校等＞ オープンスクール等により、学校生活の様子、部活動の様子、入学者選抜の情報等を知らせてほしい。 ＜企業・地域等＞ 連携・協力体制をさらに推進できるよう情報発信してほしい。 地域活性化につながる行事等へ参画してほしい。	＜家庭・保護者＞ 本校教育方針を理解と協力、特に社会的役割と責任の自覚を促す指導への協力をしてほしい。 ＜中学校・小学校等＞ 継続的・効果的な指導のために個々の生徒の情報共有をしたい。 ＜企業等＞ 専門科目等における技術指導やインターンシップ等の連携と協力への支援を拡充してほしい。
(3) 前年度の学校関係者評価等	○　卒業までの３年間を見通したキャリア教育の体制が確立している。 ○　人権教育については、充実していると考えられるが、教材研究や講師の選定など引き続き検討を深める必要がある。 ○　地元小学校生へのものづくり体験教室は、工業教育の魅力を発信する絶好の機会として意義があり、継続・発展を期待する。 ○　若者のコミュニケーション能力が低いと言われる社会環境において、コミュニケーション力を高める取り組みを行っている。さらに充実・発展させてほしい。 ○　専攻科の学習内容や取り組みをさらに広報し、より多くの地域・企業に専攻科を知ってもらうことで専攻科の発展につなげていくとよい。	

(4) 現状と課題	教育活動	○　生徒たちは将来のスペシャリストを目指し、専門教科等の学習に努力している。さらに、部活動等でも努力し、優秀な成績を収めている。生徒の自己実現のために、教職員が、学習指導と生活指導の改善等に継続して取り組むことが必要である。 ○　進路指導を充実させるため、生徒一人ひとりに応じた支援ができる体制を充実させる必要がある。 ○　企業が必要とする技術力が多様であり、本校工業教育の到達目標を定めにくい。

	学校運営等	○　職員数、職員室の数が多い学校であるが、分掌、工業各科、学年間の連携をスムーズに行ない、教職員間で情報共有が図れるよう取り組み、組織として学校全体での取組が円滑にできるようになりつつある。 ○　放課後の指導等により、資格取得、ものづくり活動、部活動等において大きな成果を収めている。 ○　各種委員会等の会議が多くなり、教員が生徒と関わる時間を確保が必要である。

3　中長期的な重点目標

教育活動	○　「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成するため、資格取得やインターンシップの一層の充実を図るとともに職業人として必要な力を身に付けさせるための活動を体系的に実践する。 ○　経済、産業、文化等、さまざまな分野でグローバル化が進展する中、価値観の異なる多様な人々と協働していく力の育成や、海外での仕事に対する意欲や関心を高めるために、海外インターンシップや外国での勤務経験がある職業人の講話などの取組を行う。 ○　生徒が自己実現を図ることができるよう、全職員が連携した指導および支援体制を強化する。
学校運営等	○　地域との連携を密にし、学校との信頼関係を構築する。地域の行事への参加、地域の小中学校への出前授業、学校説明会等を１０回以上行う。 ○　企業等との連携強化を図るため企業訪問を実施する。（100 社以上） ○　人権教育基本方針をもとに、人権感覚あふれる学校づくりを推進する。 ○　生徒会活動や部活動などの自主的な活動を一層充実させ、心豊かな人間性と個性の伸長を図る。 ○　部活動における適切な練習時間を定めるとともに、生徒・部活動顧問ともに休養する日を設定（１日/週）する。（目標１００％） ○　精選と効率化により会議の時間を１時間以内とする。（目標１００％）また、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、「働きやすい職場」をつくるために業務内容を精査し時間外労働の縮減に取り組む。（目標：時間外労働時間の前年比 50%減）

4　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実と資格取得	【全体】 (1) 生徒に「生きる力」をつける環境をつくるため、授業変更、特別時間割などに積極的に取り組み、授業時間の確保に努め、自習課題時間の前年度減を目指します。 (2) 学習成果の指標として学科毎に特色のある資格試験や検定試験、競技会に取り組み、ジュニアマイスター（全工協）表彰８０人以上を目指します。また学科の特徴を踏まえて以下の取組を行います。 (3) 工業科の職員が中心となってインターンシップの指導等を学校全体で取り組めるようにします。 【工業学科】 （１）インターンシップなどを通じて、職業観と勤労観を培うと共に、自己と職業の理解を促します。 （２）ものづくり活動を充実させます。 ものづくりコンテスト、若年者競技大会、など各種競技	(1) 自習課題時間が 177 時間（前年度 412 時間）で 235 時間の授業時間確保ができた。(3月末時点)（ただし、4月 5 月は休校） (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施計画を見直すなどしたが、直前で中止となることもあり、外部講師等による一部実施にとどまった。ジュニアマイスターは35人が獲得。 (3) 学年全体で行うインターンシップは5月に準備ができずに中止となった。事業所単位で希望する生徒に対し7月と12月に実施計画を立てたが、いずれも直前で中	

	会に参加すると共に、実習以外でのものづくり活動に取り組む生徒を養成します。 （３）外部教育力の導入を図り、課題を発見し、解決する資質を養います。また、技術の向上に努めます。 （４）学習成果の指標と生徒が達成感を感じ、将来にわたり学び続ける資質を養うため以下の取り組みを行います。 （物質工学科） ①　３年間で危険物取扱者試験乙種全類合格 80%。 ②　ボイラー技士資格試験者数を前年より増加。 （機械科） ①　技能検定（旋盤、機械組立仕上げ、機械プラント製図）の合格率１００%。 ②　１年時で危険物取扱者試験乙種第４類の取得者数 90%。 （電子機械科） ①　技能検定（マシニングセンタ、シーケンサ）１００％ ②　全工協（情報技術検定８０％以上、製図検定７０％ ③　第二種電気工事士合格率１００％ ④　危険物乙種第４類取得試験（１年で９０％） ⑤　ガス溶接技能講習希望者１００％ （電気科） ①　第二種電気工事士試験の２年生全員受験と合格率７０％以上。 （電子工学科） ①　資格・検定取得者数のべ 120 人以上。 （建築科） ①　２級建築施工管理技士（学科試験）の合格率で全国平均以上。 ②　建築ＣＡＤ検定３級の合格率で全国平均以上。 ③　技能検定３級（建築大工）の受験と全員合格。 ④　３・４級建設業経理事務士の全員合格。 ⑤　各種全国高校建築設計競技への参加と上位入賞。 また、建築業界への就職の定着をさらに進めます。 さらに、各協会・組織とも積極的に連携を図り、学校教育活動のアピールに努めます。 （自動車科） ①　計算技術検定の合格率１００％。 ②　情報技術検定試験の合格率１００％。 ③　ガス溶接技能講習修了証の取得率１００％。 ④　自動車整備士試験の１００％合格。	止となった。 【資格取得等】 【機械科】 ①技能検定は中止 ②71/78（人）の合格で取得者数 91%。 【電子機械科】 ①マシニング検定試験無、しシーケンス検定筆記 1月24日 ②情報報技術検定（1月15日）、製図検定（28/39）72% ⑤ガス溶接　筆記100% 【電気科】 62．5%で未達成となった 【電子工学科】 139 人（3 月 19 日時点） 1月：情報技術検定試験実施、第2種電気工事士合格発表 【建築科】 ①2 級建築施工管理技士 11 名合格／25 名中 (44%) 全国平均 35.9% ②建築 CAD 検定 35 名合格／40 名 ④3 級建設業経理事務士 19 名合格／19 名中 →100%目標達成 ・4 級建設業経理事務士 →受験者なし、目標達成できず ⑤参加生徒 10 名 提出作品のべ 10 点中 入賞作品全作品 10 点 内　最優秀賞 6 点 →　目標達成 ・2 年生製図にて外部教育力による製図課題取組中 ・11.24 企業人講話実施 【自動車科】 計算技術検定の合格率は、85%でした。 情報技術検定の合格率は87%でした。 ガス溶接技能講習の合格率は100%でした。	
キャリア教育の充実	【工業科】 （１）職場での即戦力となりうるために、ものづくり大会等の競技会に出場し、技術の向上を図ります。 （２）企業人を招聘したものづくり交流会等を実施し、技術・技能の向上とともに地域の産業について学び、職業観を養うきっかけとなる取り組みを推進します。 （３）各業界と連携を図り、インターンシップや現場見学などを実施し、キャリア教育を充実させます。 【工業科】各学年とも実習の点呼・連絡時に生徒の１分間ス	(1) 新型コロナウイスにより、インターンシップ、競技会等が中止となった。 (2)ものづくり交流会を12月に計画したが中止となった。 【建築科】2 年生　外部教育力による製図課題の取組 (3) 11.17 現場見学会を実施した。 コロナ禍において、実習前の集団整列、人前でのスピ	

	ピーチを実施し、コミュニケーション能力や心豊かな人間性と個々の伸長を図ります。 【進路指導】 進路実現のため、外部講師を招き、集団討論・グループワークの採用試験等の事前指導を充実させます。また職業意識を低学年から高めるための新たなキャリアガイダンスの内容を見直します。 ３年生の就職希望者の就職内定率及び進学希望者の進学１００％とします。 ・応募前企業見学を実施してミスマッチをなくします。 進路実現のために以下の取組を行います。 ・学年通信を発行します。（指標：３学年で１０回以上） 【読書指導】 ・生涯にわたって学ぶ資質を養うために図書館の利用促進を図ります。 ・年間貸出冊数６０００冊 ・図書館便りを月１回発行	ーチは中止となった。 【進路指導】 進捗率 100%であった。 集団討論事前指導 8/25 実施 二年生進路ガイダンス 12/18 実施 一年生進路ガイダンス 1/18 実施 就職内定 100% 90% 応募前見学コロナ感染防止の為一部中止企業有り 【読書指導】 ＜12 月 15 現在＞ ・生徒貸出冊 2,196 冊 図書館便り 9回発行	
人権教育	これまで生徒がＬＧＢＴの人たちの抱える問題について知識として学ぶ取り組みが多かったが、今後は、その人たちの視点に立って考えることができる資質を育むための取り組みを拡充します。また、いじめに関するアンケートを実施するとともにその結果を職員で共有し、いじめの早期発見に取り組みます。そのために必要な以下の取り組みを行います。 ・人権だよりの発行（年３回以上） ・人権ＬＨＲを１学期と２学期に全学年で実施 ・人権問題についてグローバルな視点を持ち、自ら考え、判断し、行動できるような講演会の実施 ・１年生を対象としたＳＮＳに関する講演会の実施 ・修学旅行先の沖縄について取り上げた平和学習の実施	人権だよりの発行、(3回) ・達成率 100% 人権LHR ・1学期(7 月 14 日実施) ・2 学期(12 月 2 日実施) ・講演会(12 月 21 日実施)・ ・学校生活アンケートという形で実施	
生徒指導	(1)基本的な生活習慣の確立について取り組みます。また、社会で必要な礼儀に加えコミュニケーション力を育みます。 ・規則正しい生活習慣の確立、遅刻のない学校生活を送る。（指標：遅刻件数１件／日以下） ・社会で必要な力を養うため、来客者等に対するあいさつ・礼儀作法を身につける。 (2) 自転車通学の安全とマナー向上、交通ルールの順守を図り、交通事故防止に取り組みます。そのために登校指導・講話を実施します。	(1)について 臨時休業等により生徒の登校日数が不定期となり遅刻数の集計は行わなかった。 特別指導に関して、昨年度は7件10名であったが今年度は0件である。 (2)について 交通事故件数は昨年度24件、今年度も29件と横ばいである。	

保健管理	1　視力と歯についての指導を重点課題ととらえ保健指導を行います。 2　生徒保健委員会による保健だよりを年８回以上発行し、生徒自身が健康について考える機会とします。また、保健便り「すこやか四工」を毎月発行し、健康への関心を高めます。 3　結核検診・心臓検診・腎臓検診における精密検査の実施率を１００%にします。 4　学期に一回「学校保健委員会」を開催し、学校医との連携・情報交換を密にします。（年３回開催予定）。 5　「性に関する講話」「メンタルヘルスに関する講話」をそれぞれ実施します。 6　学期毎に安全点検を実施します。また、安全点検時に限らず、危険箇所について報告を受けた場合は、生徒・職員に周知徹底をし、事故防止に努めます。 7　教育相談を実施し、必要に応じてカウンセラーにつなげます。また、保健室と関係教員が共通理解のもと生徒に対応できるようにします。 8　特別支援教育推進委員会を年５回開催し職員が一致して支援を行えるように情報共有を図ります。また、発達支援障がい委員を定期的に活用し発達に不安がある生徒・保護者の継続的支援にあたります。	1 歯科検診実施者に個別保健指導を行った（100%） 2 「すこやか四工」「生徒保健委員会便り（生徒が作成）」のどちらか及び両方を毎月発行した。（100%） 3 コロナ禍での休業等により日程変更があったが在籍生徒は全員検診することができた（達成率100%） 4 感染防止の観点から流行期の実施は見合わせたが、感染拡大防止の観点から全体会は実施せず、時期を変更しながら小委員会という形で3回実施。（100%） 5 一部例年とは違う形を取りながら実施（100%） 6 学期1回の点検を実施（100%） 7 支援が必要な生徒・保護者の面談を実施し必要に応じ SC へつなげることができた。（100%） 8 年間計画の変更があり4回しか計画できなかったが、特別支援教育推進委員会を予定通り開催。（100%）	

改善課題
４月、５月の臨時休業にともなう年間指導計画の見直しなどにより前年と比較するのが難しい項目があった。 資格取得については、生徒が学習する機会を確保することができたが、コロナ禍により実施時期が例年と異なったことで、教科の学習と連続する学びができなかった。 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、インターンシップやものづくり競技会など、いくつかの取り組みが中止となる中で、同等の成果が見込まれる代替となる学習を進めることができなかった。次年度は新型コロナウイルスが収束しないことも踏まえた教育活動を検討する必要がある。 就職試験の開始時期が例年より１ヶ月遅くなったことから内定がでるのも１ヶ月遅くなったが、就職希望者の内定は１００％であった。

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	（１）防災・減災の観点から、防災意識を高めるとともに、防災教育・訓練の充実を図ります。 （２）巨大地震が発生し津波避難を想定した防災訓練を実施	(1) 災害発生に備えた人員点呼訓練、ワークシートによる防災学習を行った。	

	します。 （３）ＰＴＡ役員会を５回以上行い、ＰＴＡ会報を発行します。 （４）人権教育を計画的、継続的に推進します。（推進委員会の開催　年間11回） （５）学校医との連携・情報交換を密にします。 （６）特別支援教育の推進（委員会を年５回以上開催） （７）学期毎に「学校保健委員会」を開催します。 （８）「働きやすい職場づくり」を目指します。 ・部活動顧問も部活動休養日を設定します。（１日/週） ・定時退校日を設置し、定時退校日は職員どおしで帰宅を促すような組織つくりを推進します。（１日／月） ・１か月の平均時間外労働時間を２０時間以内、年間休暇取得日数の前年比１日増を目指します。 ・時間外労働時間が月45時間、年間360時間を超えないように取り組みます。月４５時間を超えた職員には翌月も連続して超えないよう、管理職から働きかけます。 （９）オープンスクールや高校生活入門講座、地元小学生の体験授業等では、本校生が培った技術や精神、身に付いた知識やコミュニケーション能力を発揮し成果を実感できるよう最大限活用します。企画や運営面で、生徒が主体的に取り組めるように工夫します。	(2)津波を想定した避難訓練を実施した。 (3)PTA役員会は、感染拡大防止に努めながら、3回開催した。 (4)推進委員会9回(1月まで) (5)　適宜、学校医等との連携を取り生徒の健康の保持増進や環境整備につとめた。 (6)　年間計画の変更のため、今年度は4回開催。 (7)　感染防止の観点から実施時期を見直し、必要な時期に少人数での実施とした。 (8)オンライン授業の準備等で6、7月には定時退校を推進することができなかったが、9月以降は退校を促すことができた 休暇日数は平均21日2時間で前年同月比で2．2日増加している。 　時間外労働時間が月80時間を超えた職員がのべ40から4人となった。	

改善課題

　避難訓練では地震発生を前年度と異なる時間帯に想定して行うなど、新しい取り組みにより、生徒の安全確保について検証することができた。今後も様々な場面を想定した訓練を進めることで、学校の防災体制を構築していく必要がある。

　ＰＴＡ役員会は、感染拡大防止のため、開催回数が減ったが書面やメールにより代替できた。また、PTA総会は書面議決とした。保護者との連携について、どのようなあり方が望ましいのか検証する必要がある。

　職員の休暇取得日数が減少した。また、時間外労働時間が月４５時間を超える職員が増加するなど働き方改革の取り組みについて進めることができなかった。オンライン授業の導入など新たな取り組みにより、職員の業務が変則となったことが主な要因と考えられるが、ライフ・ワーク・バランスについて職員の一層の理解を図るとともに時間内で業務を行うことの大切さについて周知をする必要がある。

　オープンスクールは新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止とした。高校生活入門講座と地元小学生の体験授業では、参加した生徒の小学生とのコミュニケーションをとることができ、また、人に教えることの難しさを知ることができたと回答している。今後も生徒が主体的に活動できるようさらなる取り組みを進めていく必要がある。

５　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	四日市工業の生徒は校外でも挨拶をしてくれて気持ちがよい。職業高校の強みである。 コロナ禍で求人状況が厳しくなる中、専攻科や本科では進路実現に素晴らしい成果を上げている。 小学校のものづくり教室は小学生も期待している。感染防止対策等で大変ではあるが、このような取り組みを中止とすることなく、実施できるよう工夫しながら進めている。

６　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	生徒が学習活動と部活動との両立を図り、計画的・継続的に学習を行うことができるように教職員間での情報の共有や連携した取り組みをいっそう進めます。 基礎学力向上のために授業改善を継続して行うとともに、指導と評価の一体化を踏まえたカリキュラムマネジメントの推進を一層行う必要があります。 コロナ禍等による状況変化にも柔軟に対応し、教育活動を続けるため、学習のねらいや目的を明確に生徒に提示するとともに、事前指導や事後指導などの工夫により、学習意欲向上のための動機付けを行います。
学校運営についての改善策	デスクネッツやオンライン会議等を活用することで、会議の効率をあげるようにします。 教職員の健康管理及び過重労働削減に努め、報告書類の内容の見直し等による事務処理の軽減などの業務内容を見直すとともに、長時間労働が及ぼす健康障害等を職員に周知し、「働きやすい職場づくり」を目指します。そのために引き続き以下の取り組みを継続します。 ・部活動休養日の見える化に取り組みます。 ・職員の休暇取得の対前年比増を目指します。 ・月に一日の定時退校日は職員同士で帰宅を促すよう取り組みます。